# 有害物質から子どもを守る会(秋田・宮城)

## 会報 35「HPV ワクチンの真実⑥副作用」

ホームページ; https://askhh.mkn-hospital.com/

### ＜HPV ワクチンの接種開始と重篤な副作用＞

下の表は安田美絵著（2013 年, 佐藤荘太郎監修）『こんなにあぶない子宮頸がんワクチン』（p 15-19）よりの引用である。厚労省は「接種時の痛みや不安が心身の反応を引き起こした」とし、厚労省の有識者会議は「定期接種を中止するほどリスクは高くないが、安全性について国民に必要十分な説明ができる状態にない」と、2013 年６月 14 日「積極的勧奨中止」を決めた。

■「子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）の副反応報告状況について」および「子宮頸がん予防ワクチン（ガーダシル）の副反応報告状況について」（厚生労働省 2013 年６月 14 日）には、下記のような記述がある。

副反応報告数（発売開始から平成 25 年３月 31 日報告分まで）

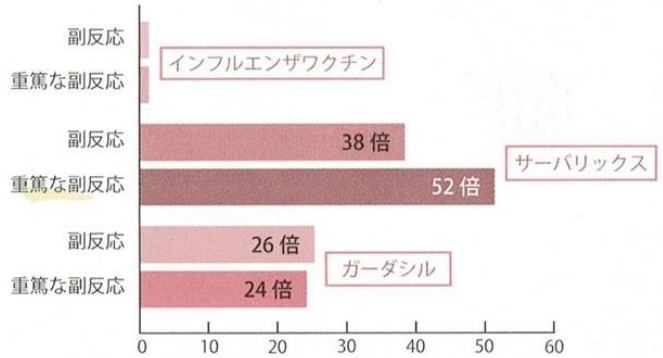
サーバリックス

| | 接種可能のべ人数（回分） | 製造販売業者からの報告 | 医療機関からの報告 | |
|---|---|---|---|---|
| | | 報告数（報告頻度） | 全報告数（報告頻度） | うち重篤 |
| 平成 25 年１月１日～３月 31 日 | 113,322 | 11(1) 0.010%(0.0009%) | 17 (0.015%) | 3(0) 0.003% |
| 販売開始からの累計 | 6,957,386 | 704(1) 0.010%(0%) | 1001 0.014% | 91(1) 0.0013%(0.00001%) |

ガーダシル

| | 接種可能のべ人数（回分） | 製造販売業者からの報告 | 医療機関からの報告 | |
|---|---|---|---|---|
| | | 報告数（報告頻度） | 全報告数（報告頻度） | うち重篤 |
| 平成 25 年１月１日～３月 31 日 | 242,604 | 6(0) 0.002%(0%) | 10 0.004% | 2 0.0008%(0%) |
| 販売開始からの累計 | 1,688,761 | 68(0) 0.004%(0%) | 195 0.013% | 15(0) 0.0009%(0%) |

■副反応発生率の比較（インフルエンザワクチンを１とした場合）




出典：参議院厚生労働委員会 2013 年３月 28 日、はたともこ議員質疑を改変

接種対象者人数は 864.5 万人、このうち 338 万人（39.1%）が接種を受けた。医療機関から報告された副反応は約 1196 人であった。インフルエンザと比較すると、副反応の発生率はかなり高い（新型コロナワクチンの副作用は死者、重篤共に HPV ワクチンとは比べものにならないほど多い）。

問題は重篤な副反応 106 例である。多数の副反応が出たのを受け、厚労省は平成 25（2013）年に研究班を作り、信州大学医学部長・池田修一第三内科教授を班長に任命し、重篤例を中心に調査・研究を始めた。

### ＜重篤副反応の病態＞

池田教授は重症患者約 200 名を診察し、そのまとめとして令和５年の裁判の

中で以下のように証言している。(2023/5/18　HPV ワクチン裁判、東京訴訟で初の証人尋問。原告側の証人として出廷)

・私は神経内科医、難病の診察に携わってきた。
・2013 年 6 月に厚労省から依頼を受け研究をスタート。
・HPV ワクチン接種後の重症患者 200 人以上を診察、副反応と診断したのは 87 人。
・全身の痛みなど CRPS（複合性局所疼痛症候群）に似た症状。
・単一の症状ではなく、複数の症状が重なり、時期によって変わる。
・CRPS、起立性調節障害、高次脳機能障害が合わさっているこれまでにない病態。
・高次脳機能障害は、顔や道がわからない。単純な動作はできても、マッチで火をつけるというような連続の動作になるとできなくなる。
・高次脳機能障害は他の症状より少し遅れて出てくる。
・勧奨中止した時期は被害者は出ていない。
・2014 年に論文を出したが、その後デンマーク、コロンビア、イタリア、メキシコからも同様の論文が発表された。
・脳脊髄液やリンパ液にサイトカインが出ている。

**＜厚労省、他の専門の学者はどう考えたか＞**

ガーダシルの添付文書には次のように書かれている。「・ワクチン接種直後又は摂取後に注射による心因反応を含む迷血管迷走経反射として失神が現れることがある。失神による転倒を避けるため、接種後 30 分程度は座らせるなどした上で被接種者の状態を観察することが望ましい。・発生機序は不明であるが、ワクチン摂取後に注射部位に限定しない激しい疼痛（筋肉痛、関節痛、皮膚の痛みなど)、しびれ、脱力等があらわれ、長期間症状が持続する例が報告されているため、異常が認められた場合には、神経学的・免疫学的な鑑別診断を含めた適切な診療が可能な医療機関を受診させるなどの対応を行うこと。」

●厚労省は 2014 年に重篤副反応について、「心身の反応、機能性身体症状」と発表した。
●自己免疫性脳症（厚労省班会議：荒田ら、2018 年）：鹿児島大医学部神経内科 58 例。接種後 7 日～4 年。頭痛、四肢疼痛、倦怠感、過眠、羞明、脱力、立ちくらみ、学習障害、月経不順、発汗（≒筋痛性脳脊髄炎、慢性疲労症候群）「多種多様な自己抗体の出現」していた。論文中で、ワクチンの積極的推奨を再開した場合、副反応で苦しむ患者が再度発生することが予想される」と記している。荒田仁ら（神経内科、89(3):pp313-318,2018）
●HPV ワクチン関連神経免疫症候群：HANS（2019 年、日本自律神経学会が提唱）東京慈恵会医科病院、帝京大学医学部。130(44)例。頭痛、四肢疼痛、全身倦怠感、過眠、立ちくらみ。(VLP に対する異物反応による視床下部症候群？）
●アジュバント病：イスラエルのシェーンフェルト医師が 2011 年に提唱　(J Autoimmunity 36-1,24-8.2011)＝ASIA 症候群（autoimmune/inflammatory syndrome induced by adjuvant)。

＜付記＞

被害者は、2013 年 3 月に「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を結成し、2016 年 7 月には合計 63 名の被害者が４地裁（東京・名古屋・大阪・福岡）に一斉提訴した。